

私の父

動画リンク : <https://youtu.be/X1PU46qnisA>

今回は "私の父" を学びながら、日本語を勉強しましょう。
この動画は、前半は少しゆっくりのスピードで、漢字には "ふりがな" があります。
後半は少しだけ速く (+20%) なり、漢字に "ふりがな" はありません。学習にお役立てくださ

■自己紹介と父の紹介

私の名前は田中大輔です。今日は、私の父についてお話ししたいと思います。
父の名前は田中健一です。年齢は58歳です。趣味は読書で、特に歴史小説を読むのが好きです。
仕事が終わった後や休日の夜には、静かな時間を楽しみながら、本を読むことが父のリラックス方法です。
戦国時代や幕末など、日本の歴史に関する本がお気に入りです。

歴史の登場人物たちがどのように生き、どのような決断をしたのかを想像しながら読むのが楽しいそうです。
読んだ本について家族や友人と語り合うのも好きです。
息子である私に "この時代の人々はこんなことを考えていたんだよ" などと歴史の話をするのがよくあります。

父との思い出はたくさんありますが、特に家族で旅行に行ったときの楽しい思い出は今でもよく覚えています。
父との思い出は、私の成長に大きな影響を与えました。そして、その経験は、今の私を作ってくれたと思います。
今回は、父から学んだことや、今でも心に残っている出来事をみなさんにお話しします。
皆さんにも、日本の父親像や、日本の家庭での父親の役割について、少しでも理解してもらえたら嬉しいです。

■日本の父親像と私の父

日本では、50代の父親は一般的に「厳しいけれど、家族を大切にする」と言われています。

特に、昔の父親は、仕事が忙しく、家で過ごす時間はほとんどありませんでした。

家族のために一生懸命働くというイメージが強いです。

私の父も、そのような典型的な日本の父親のひとりです。

父はとても真面目で、責任感が強い人でした。仕事では常に全力を尽くし、家族をしっかりと支えてくれました。

仕事から帰ってくると疲れているはずなのに、私たち家族と過ごす時間を大切にしてくれました。

父が頼りになる存在だと感じたエピソードがあります。

ある日、私は学校で大切な発表を控えていましたが、前日の夜、緊張してうまく準備ができませんでした。

そんな時、父は夜遅くまで私の練習に付き合ってくれました。

父のアドバイスのおかげで、自信を持って発表に臨むことができました。

このとき、父はいつも私の味方で、困ったときに頼りになる存在だと強く感じました。

もちろん、父は時に厳しいこともありました。

たとえば、私が小学生のころ、友達とふざけて学校の窓ガラスを壊してしまったことがあります。

そのとき、父は私を強く叱りました。

「物を大切にしろ」と「他の人に迷惑をかけてはいけない」と厳しく言われ、

その後、一緒に学校に謝りに行きました。

しかし、その厳しさの裏にはいつも優しさがあり、叱った後には「これからは気をつければいいんだよ」と優しく励ましてくれました。

父はいつでも家族のことを第一に考え、私たちを守ってくれる頼りになる存在でした。

■父の仕事と家庭での姿

私の父は自動車メーカーでエンジニアをしていました。父の仕事は、車のエンジンや新しい技術を開発することです。毎日、工場とオフィスを行き来し、資料を読んだり、実験やテストを繰り返したりしていたそうです。大きなプロジェクトの時期には、夜の10時を過ぎてから家に帰ることもよくありました。

私が小さいころ、父は休日になると車についていろいろ教えてくださいました。車の仕組みやエンジンがどう動くかを、わかりやすく話してくれたのです。父は車が大好きで、その情熱が私にも伝わってきました。

時々、父は仕事の話をしてくれることもありました。たとえば、新しいエンジンを作るためのアイデアや、うまくいったときの喜びなどです。

その話を聞くのが、私はとても好きでした。また、父と一緒に作った車のプラモデルも、特別な思い出のひとつです。父はプラモデルの部品を組み立てる方法や、細かい部分の作り方を丁寧に教えてくださいました。

プラモデルが完成したとき、父と一緒に達成感を味わえたことは、今でも心に残っています。

今もそのプラモデルは私の部屋に飾ってあり、それを見るたびに、父と過ごした楽しい時間を思い出します。

仕事から帰ってきた父は、疲れていても、家族との時間を大切にしてくれました。

週末には、家族全員で夕食をとる時間を楽しみにしていました。父は料理を手伝うこともあり、そのときはみんなでわいわいと楽しく過ごしました。

仕事が大変だった父ですが、家族との時間をしっかり大事にしてくれる、優しい父でした。

父の姿を見て、私は"一生懸命働くこと"と"家族を大切にすること"の両方が大切だと学びました。

■ 父が教えてくれたルール

私の父は、家庭内でのいくつかのルールを私に教えてくれました。
その中でも特に印象に残っているのは " 時間を守ること " と " 家事を手伝うこと " です。
これらのルールは、ただの規則ではなく、父が大切にしていた価値観を反映したものでした。

まず、 " 時間を守ること " についてです。父は、時間を守ることがとても大事だと常に言っていました。
たとえば、学校に行く時間や友達と遊ぶ約束の時間をきちんと守るように、私に言い聞かせました。
父自身も、仕事でどんなに忙しくても、約束の時間には必ず間に合うよう行動していました。
私が遅刻しそうなときには、 " 時間を守らないと、他の人に迷惑をかけるんだよ " と叱られたこともあります。

父は、自分だけでなく、他の人の時間も大切にすることが重要だと教えてくれたのです。

次に " 家事を手伝うこと " についてです。父は、家のことはみんなで協力してやるべきだと考えていました。
たとえば、食事の後片付けや、週末の掃除を手伝うことが当たり前だと言われました。
子どものころは、 " どうして自分がやらなければいけないの？ " と思うこともありましたが、今では父の教えの意味がわかります。
家族みんなで協力して家事をすることが、家庭を円滑に保つために大切だということを知りました。

これらのルールは、私にとって日常生活の中で自然と守るものとなり、今でも大切にしています。
父が教えてくれたこれらの価値観は、私の生活に深く根付いており、私の成長にとって大きな影響を与えました。

■父との特別な思い出

私にとって、父との一番特別な思い出は、家族で行った初めての旅行です。
私が小学校4年生のとき、家族みんなで北海道に旅行に行きました。
普段は忙しい父も、この旅行のために休みを取ってくれて、家族全員で過ごす時間を楽しみました。

この旅行で、私は初めて飛行機に乗りました。
飛行機に乗るときは少し緊張しました。
父が隣で「大丈夫だよ、これもいい経験だ」と笑いながら励ましてくれたので、安心しました。

空の上から見る景色はとても美しく、父と一緒にその景色を見たことも忘れられない思い出です。

旅行中、父はずっと笑顔で、家族のために色々な計画を立ててくれました。
特に思い出深いのは、北海道の有名な動物園に行ったことです。
私は動物が大好きだったので、父は動物のことをたくさん調べて、私にいろいろ教えてくれました。
一緒に動物を見て歩いた時間は、とても楽しかったです。
この旅行は、家族と過ごす大切さを改めて感じた思い出深い時間でした。

また、旅行だけでなく、家族のイベントでも父は特別な思い出を作ってくれました。
たとえば、私の誕生日には、毎年特別な食事を作ってくれました。
父が作るカレーは私のお気に入りです、誕生日には必ず作ってくれる約束でした。

誕生日のたびに、父と一緒に台所でカレーを作り、その後、家族全員と一緒に食べる時間は、私にとって最高の瞬間でした。
家族旅行や特別なイベントを通じて、私は父との絆をより深く感じるようになりました。

これらの思い出は、私の心の中でずっと大切にしています。

■父の厳しさ

私の父は、普段は優しい人でしたが、時にはとても厳しく叱ることもありました。

私が小学校の頃に、宿題を忘れたときのことが今でも強く印象に残っています。ある日、友達と遊びすぎて、宿題をやるのを忘れてしまい、先生に叱られました。

そのことを家で父に話すと、父はとても真剣な顔で"勉強は自分のためにするんだ。

ちゃんと責任を持ってやりなさい"と言いました。

その時、私は"宿題くらいでこんなに叱られるなんて"と思い、とても嫌な気持ちになりました。

しかし、よく考えると、父があんなに真剣に叱ったのは、私の将来を心配してくれたからだということに気づきました。

父は、勉強や責任を持つことが、私が大人になったときに役立つと考えていたのです。

父の厳しさには、常に愛情が込められていました。

叱った後で、必ず"どうして叱ったのか"をしっかりと説明してくれました。

そして、"お前ならできる"と言って、励ましてくれるのも父でした。

今振り返ってみると、父が厳しかった場面は、すべて私の成長のためだったとおもいます。

その厳しさの裏には、父の深い愛情と、私が立派な大人になることを願う強い気持ちがあったのです。

■父から学んだ教訓

私の父から学んだ教訓は、私の人生に大きな影響を与えています。

特に、父がいつも強調していた"時間を守ること"と"家事を手伝うこと"は、大人になった今でもとても大切にしています。

父が"時間を守ること"を意識しているのは、過去の仕事での経験が理由だと聞きました。

父は若い頃、仕事で大きなチャンスを逃してしまっていたことがありました。

それは、たった5分遅刻したために、重要な会議に参加できなかったというものでした。

その出来事がきっかけで、父は時間を守ることがどれほど大切かを痛感しました。

どんなに忙しくても時間厳守を徹底するようになったそうです。

私が約束の時間に遅れそうなときには、父は " 時間を守るとは、信頼を守ることだよ " とよく言っていました。

これが、私にとって大切な教訓となり、今でも仕事やプライベートで時間を守ることを常に意識しています。

もう一つの " 家事を手伝うこと " についても、父はとても重要視していました。

父は、自分の両親が共働きだったため、子どもの頃から家事を手伝う習慣が身についていたそうです。

母親が疲れている姿を見るたびに、自分も何かできることはないかと考え、掃除や食事の準備を手伝うようになったと言います。

父は " 家族はみんなで協力して支え合うものだ " と私にも教えてくれました。家事を手伝うことが家族の絆を深める大切な要素であると感じ、私もそれを習慣にしています。

これらの教訓は、私の生活の中で大きな意味を持っています。

時間を守ることと家事を手伝うことは、日々の生活をスムーズにします。

そして、周りの人との信頼関係や絆を深めるためにとても重要なことだと感じています。

■価値観の違いに対する考え

私が大人になり、父と自分の価値観が少し違うことに気づくことができました。

時代の変化や技術の進歩によって、考え方や生き方が父と違う部分があると感ずることがあります。

たとえば、父は " 仕事が最優先 " という考え方を持っていました。

ちち じだい ちょうじかんはたら あまえ まえ かぞく ささ さいぜん
父の時代では、長時間働くことが当たり前で、それが家族を支えるための最善の方法だと信じられていました。

ちち いっしょうけんめいはたら わたし かぞく やしな かぞく す じかん すく
父は一生懸命働き、私たち家族を養ってくれましたが、家族と過ごす時間が少なかったことも事実です。

いっぽう わたし しごと たいせつ じゅうよう かんが
一方で、私は仕事とプライベートのバランスを大切にすることが重要だと考えています。

もちろん、仕事は大切ですが、家族や友達との時間も同じくらい大事だと思っています。

げんだい はたら かた じゅうなん わたし
現代では、テレワークやフレックスタイムなど、働き方が柔軟になり、私はそのような働き方を活用しています。

このような価値観の違いがあるものの、私は父の考え方を否定するわけではありません。

むしろ、父の " 家族を守るために一生懸命働く " という姿勢は、今でも尊敬しています。

ちち も かち かん じだい じょうぎょう おう ひつよう おも
父が持っていた価値観は、時代や状況に応じて必要なものだったと思います。そして、どちらの考え方にもそれぞれの良さがあると感じています。

■ 父への感謝

いま わたし ちち たい かんしゃ きも も
今、私は父に対してとても感謝の気持ちを持っています。

こ ちち きび かん
子どものころは、父が厳しいと感じることもありました。

しかし、大人になった今では、すべてが私の成長のためだったのだと理解しています。

とく かんしゃ ちち おし せきんかん かんしゃ こころ
特に感謝しているのは、父が教えてくれた " 責任感 " と " 感謝の心 " です。

ちち いそが かぞく はたら
父はどんなに忙しくても、家族のためにたくさん働いてくれました。

そして他の人に対しても常に感謝の気持ちを持って接していました。

すがた み わたし しぜん せきん も たにん かんしゃ こころ たいせつ
その姿を見て、私も自然と責任を持つことや、他人への感謝の心を大切にすることができるようになりました。

いま しごと がえ ま あ ちち ふたり さけ の い
今では、たまに仕事帰りに待ち合わせをして、父と2人でお酒を飲みに行くこともあります。

じかん こ かん ちち おとな どうし かいわ たの
その時間は、子どものころには感じられなかった父との大人同士の会話が楽しめる、私にとってとても特別なひとときです。

ちち しごと はなし かこ おも で わら はな
父も、仕事の話や過去の思い出を笑いながら話してくれます。

ちち おし たいせつ かけ かん しょうがいわす
父が教えてくれた大切な価値観は、生涯忘れません。
しょうらいわたし かぞく も おし たいせつ かぞく まも あい
将来私が家族を持ったときは、その教えを大切にしながら家族を守り、愛して
いきたいと思います。

ちち たい かんしゃ きも わす ちち ほこ おも
父に対する感謝の気持ちを忘れずに、これからも父が誇りに思ってくれるよう
な人間でありたいです。
にんげん

わたし ちち
"私の父"はいかがでしたか。
らん かんそう おし
コメント欄から感想をみんなに教えてください。

それではまた別の動画でお会いしましょう。
べつ どうが あ



Japanese-listening-SUSHI

